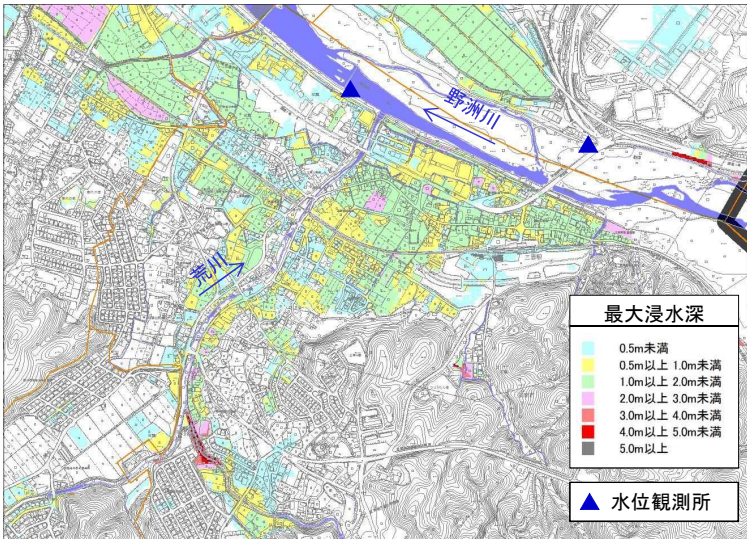
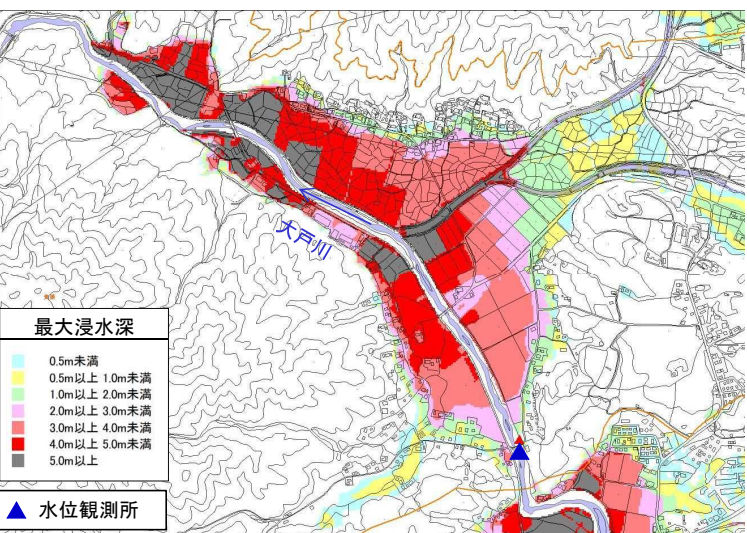


■水害に強い地域づくり計画WGの目的

どのような洪水にあっても、人命が失われることを避けるため、そなえる対策(避難場所の選定、安全な避難経路、避難のタイミング等)やとどめる対策(住まい方ルール等の検討等)について地域住民が主体となって検討し、「水害に強い地域づくり計画」の策定をとおして、地域防災力の向上に資することを目的とする。

■甲賀圏域での取り組み

地区	水害リスク：地先の安全度マップ(降雨規模1/200)	地域特性(地形特性・社会特性)	これまでの取組内容
<p>湖南市 三雲 H24～H25</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・野洲川中流部の左岸に位置し、集落内の総世帯数は約1,570世帯となっている。 ・集落内の中央部を野洲川左支川である荒川が貫流しており、沿川に居住地区が分布している。 ・滋賀県の公表した「地先の安全度マップ(確率規模1/200)」によると、想定浸水深が2m未満となる区域もみられ、一部の世帯は同区域内に居住している。 ・平成25年台風18号の出水では、荒川で護岸が被災する等、被害が発生している。 	<p>【そなえる対策】～地域防災力向上に向けて～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民・地域・行政が各々の立場でやるべきことを理解した上で、地域主導WGという形で地域防災への取り組みを実施している。(行政主導から地域主導へ) <p>～具体的成果～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織活動マニュアルの策定 ・三雲地区版洪水ハザードマップの作成、全戸配布 ・自主防災組織活動マニュアルに基づく図上訓練、避難訓練の実施
<p>甲賀市 信楽町 黄瀬 H26～</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・大戸川上流域の最下流端に位置し、集落内の総世帯数は約200世帯となっている。 ・集落内には大戸川が流れ、北側と南側には標高300m～500m程度の山地が連なっている。 ・滋賀県の公表した「地先の安全度マップ(確率規模1/200)」によると、想定浸水深が3m以上となる区域が広範囲にみられ、大部分は田畑として利用しているが、一部の世帯は同区域内に居住している。 ・居住区域の裏側は山地となっており、土砂災害警戒区域に指定されている箇所も点在する。 ・平成25年台風18号の出水を始め、過去には昭和28年の多羅尾豪雨や同年台風13号等の大洪水に見舞われている地域である。 	<p>【そなえる対策】～地域防災力向上に向けて～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黄瀬地区における現状の水害リスクについて把握した。(出前講座) ・過去の水害時の状況や地域に伝承される知恵や工夫について、水害経験者へ聞き取りを行った。(水害履歴調査) ・水害時の心構えや避難に対する新たな課題を抽出し、意見交換を行った(水害・土砂災害図上訓練) <p>【とどめる対策】～安全な住まい方に向けて～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「浸水警戒区域」の指定に向けた準備作業として、「地先の安全度マップ(確率規模1/200)」にて想定浸水深が3m以上となる区域内の既存家屋に対して、現地測量を行った。

これまでの取り組み概要

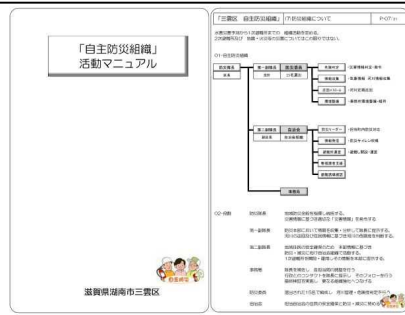
- ▶ 住民・地域・行政が各々の立場でやるべきことを理解した上で、**地域主導WGという形で地域防災への取り組みができたこと。**
(具体的成果)
 - ・自主防災組織活動マニュアルの策定
 - ・三雲地区版洪水ハザードマップの作成、全戸配布
 - ・自主防災組織活動マニュアルに基づく図上訓練、避難訓練の実施

今後の課題・展開

- ▶ 洪水到達時間の短い荒川(流域面積約10km²)では、水位による避難判断基準が困難となっており、地域も悩んでいる。
⇒上流の雨量観測所データを用いた雨量～水位関係について検討する。
⇒洪水時監視箇所に簡易水位計を設置し、データ分析のためのデータ蓄積を開始する。
- ▶ 地域の防災意識を高め、後世にも伝えていくための工夫が必要である。
⇒例えば「地域で決めた避難判断基準」を荒川沿川に設置したり、洪水時に想定される浸水深を地域に明示する等、地域の知恵や水害リスクの見える化を図っていく。

これまでの主な成果、取り組み状況

自主防災組織活動マニュアル策定 (H25. 11. 15)



三雲地区版洪水ハザードマップの作成 (H26. 2. 7)



湖南省市三雲地区での取り組み経緯

- ▶ 三雲地区の住民が主体となり、市および県の担当者の三者合同で取り組みを実施した。
- ▶ 自主防災組織活動マニュアルや三雲地区版洪水ハザードマップを作成した。

準備調査 (平成23年度)

- ・H23年に取り組み内容の説明 (H23. 5. 26)
- ・水害履歴調査 (H23. 7. 11)
- ・水害に関する出前講座と住民の意識調査 (H23. 12. 3)

H24. 6出水、H24. 9出水：市と住民による荒川の土のう積み。
これを契機に、水害に強い地域づくり計画WGが本格始動。

行政主導WG (平成24年度：計3回)

- ・三雲地区版洪水ハザードマップ(案)の作成 (H24. 12. 7)
- ・災害図上訓練(DIG)、簡易量水標設置位置検討 (H25. 1. 22)
- ・訓練結果を踏まえた三雲地区版洪水ハザードマップ修正案の提示 (H25. 2. 26)

地域主導WG (湖南省市・滋賀県は情報提供等で支援)

【自主防災組織立上げ準備チーム】(平成25年度：計7回)

- ・自主防災組織の目標確認 (H25. 5. 12)
- ・規約、組織図、避難のタイミングの検討 (H25. 6. 14)
- ・組織図、行動計画の検討 (H25. 7. 12)
- ==先進的な自主防災組織の取り組み視察 (H25. 7. 12 湖南省市防災訓練) ==
- ・行動計画、役割分担の検討 (H25. 8. 19)
- ・台帳作成手順の検討、市と準備チームによる情報伝達演習 (H25. 9. 13)
- ==三雲地区防災訓練：資機材確認 (H25. 10. 9 湖南省市防災の日) ==
- ・自主防災組織活動マニュアル中間とりまとめ、H25T18洪水における活動結果の反省 (H25. 10. 18)
- ==三雲地区防災訓練：防災サイレン・アナウンス吹鳴訓練 (H25. 11. 10) ==
- ・**自主防災組織活動マニュアル(初版)策定** (H25. 11. 15)
- ==三雲地区自主防災組織立上げ (H25. 12. 6 三雲区自主防災組織設立決起集会) ==
- ⇒三雲区自主防災組織立上げ準備チーム解散

【自主防災組織での活動】(平成25年度末～)

- ・**三雲地区版洪水ハザードマップの作成** (H26. 2. 7)
- ・湖南省市防災フォーラムでの取り組み発表 (H26. 3. 2)
- ・**自主防災会役員による水害図上訓練の実施** (H26. 3. 9)
- ・**三雲地区初の水害に対する避難訓練の実施** (H26. 3. 16)
- ・**三雲地区版洪水ハザードマップの全戸配布**
⇒三雲区地域交流センターと一時避難所(自治会館等)にA0版掲示
⇒三雲区全戸にA3版を配布

平成26年度の取り組み概要

- 200年に1回の大雨で想定浸水深が3mを超える区域が広範囲に広がる黄瀬区において、「水害に強い地域づくり計画の策定」および「浸水警戒区域の指定」に向けた準備作業に着手した。

平成26年度の主な成果、取り組み状況

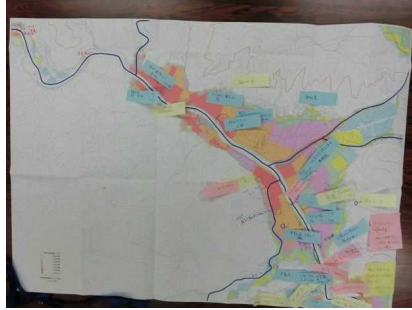
第1回住民WG【出前講座】(H26.11.15)



既存家屋の現地測量(H26.12.20)



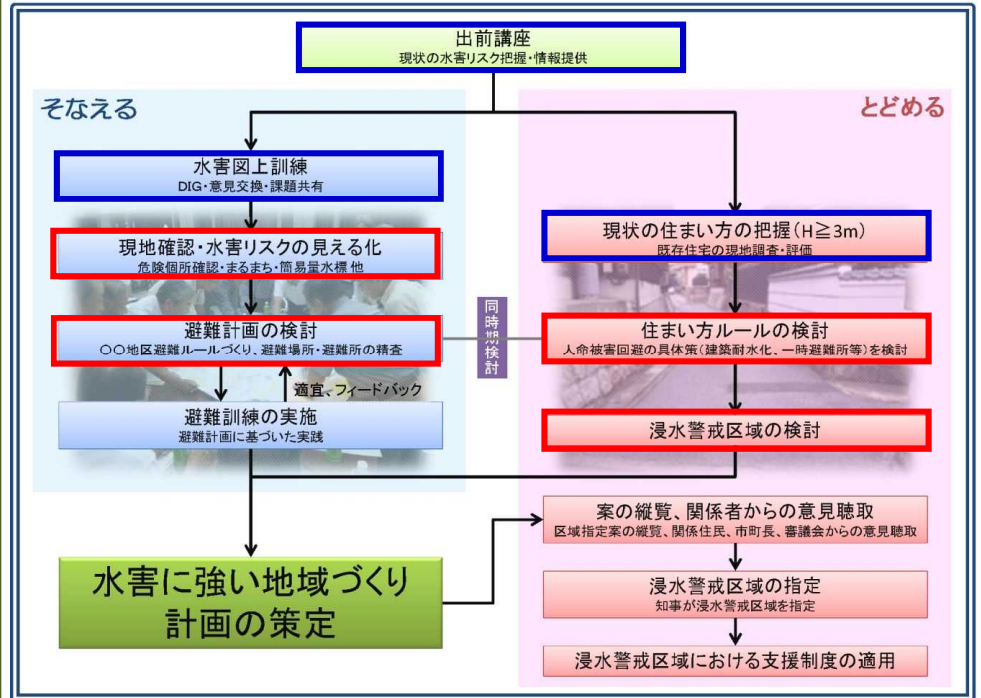
水害履歴調査(H27.2.2)



第2回住民WG【水害・土砂災害図上訓練】(H27.3.1)



甲賀市信楽町黄瀬地区での取り組みフロー



平成26年度の取り組み

【そなえる対策】

- ・黄瀬地区における現状の水害リスクの把握【出前講座】(H26.11.15)
- ・地域に伝承される知恵や工夫の水害経験者への聞き取り【水害履歴調査】(H27.2.2)
- ・水害時の心構えや避難に対する新たな課題抽出と意見交換【水害・土砂災害図上訓練】(H27.3.1)

【とどめる対策】

- ・「地先の安全度マップ(確率規模1/200)」にて想定浸水深が3m以上となる区域内の既存家屋に対する現地測量の実施(H26.12.20)

平成27年度の取り組み(案)

【そなえる対策】

- ・現地確認、水害リスクの見える化(まるまち看板の設置、簡易量水標の設置等)
- ・避難計画の検討(避難ルールづくり、避難場所・避難所の精査)

【とどめる対策】

- ・住まい方ルール検討(人的被害回避の具体策検討)
- ・浸水警戒区域の検討